

## 京都が魅せる四季

内海優希

(2019年度入学 鈴木ゼミ3期生)

京都は素晴らしい景観が多くあり、それを楽しみにする観光客で溢れている。そして、私はそんな京都が大好きである。世界有数の観光地である京都は、景観を保つために厳しい「京都府景観条例」が存在する。まず、京都府が作成している京都府景観条例パンフレットによると、「景観とは地形や植生などの自然物と、建物や道路などの人工物から織りなされる総合的な空間の眺めや風景」だと定義している。それに加えて、地域の生活や文化を写し出す鏡とも書かれていた。

次に京都府のホームページによると、京都府景観条例とは、「景観法に基づく施策とともに、地域の個性と特色を生かした良好な景観の形成に関する施策を総合的に推進するために制定された」と書いている。京都は豊かな自然に恵まれており、この美しい自然とのかかわりの中で、人々の営みや伝統に培われた文化を映しながら、多くの個性豊かな景観が形成された。しかしながら、都市化の進展や人々の価値観の多様化が、府民の生活や生業に大きな影響を与え、多くの良好な景観がその姿を変え、失われつつある。一人ひとりが、身近にある良好な景観の価値を認識し、将来の世代に引き継いでいかなければならない。

では具体的にどのような取り組みをしているのか。京都市においては、良好な景観の保全・形成、良好な住環境の保全・整備、都市機能の整備・誘導という3つの観点を踏まえ、それらのバランスを考えながら、市街地の特性を同じにする区域ごとに、特性に応じた高さの基準を設定している。三方をなだらかな山々に囲まれ、世界遺産をはじめとする寺院や京町家等による風情ある町並みも多く残る市街地の特性に配慮し、都心部から三方の山裾に行くにしたがって、次第に建築物の高さが低くなることを基本構成としている。このように景観に厳しい京都だからこそ、地元の人や観光客に愛されている。

その中で私が好きな京都の景観は、「四季の景色」である。京都と言えば「古都」、「お寺」、「歴史」といったイメージが強いと思うが、私は「四季」を思い浮かべる。四季折々の姿を見せるイメージは、定着していないのではないだろうか。四季は、日本の気候の特徴である。だから、四つの季節を楽しまないと損だし、もっと楽しんでほしいと思う。私は奈良市出身で、奈良も「古都」、「お寺」、「歴史」のイメージを持たれることが多い。しかし、京都の方が観光客に人気である。私は、なぜ奈良は京都に劣るのかを考えてみた。そこで気が付いたのは、四季折々の景色を見られるかである。私が京都に行ってみると、京都の昔ながらの風景と四季が調和してとても美しかった。そして、季節によって異なる景色を見ることが出来るので飽きない。これが奈良と京都の違いだと考える。

では実際に、私が美しいと思った場所を紹介しよう。それは清水寺である。清水寺の開創は約1200年前と言われており、古くから幅広い層に親しまれているお寺である。

清水寺境内にある音羽の滝は山中から湧き出ており、これまでに一度も涸れたことがないと言われている。音羽の滝の清水は「黄金水」、「延命水」とも呼ばれ、清水寺の名前の由来になった。音羽の滝は3本の筧から流れ落ち、滝に向かって右から、延命長寿、恋愛成就、学問成就にご利益があるそうだ。行った際には試してほしい。清水寺は世界中から観光客が訪れる人気の観光地だ。それでは、そんな清水寺の四季折々の姿を見てみよう。



春は桜の季節である。京都ではいたるところに桜が植えられ、お寺や神社と桜の風景は春の京都の風物詩になっている。清水寺では桜はもちろん、夜にはライトアップが行われており、美しい清水寺とピンク色の桜を同時に楽しむのはこの季節だけだ。

夏は緑の季節である。檜皮屋根と緑色の木々の色合いがよく合う。最もスタンダードな清水寺を拝めるので、その歴史や文化を楽しむみたい人にオススメだ。春や秋に比べると訪れる人は少ない。





秋は紅葉の季節である。周りの池の水面に映る紅葉がとても美しい。夜にはライトアップが行われ、昼間とは違ったきらびやかな世界が待っている。私も実際に清水寺へ行き、一番好きな清水寺の景色となった。是非紅葉が美しい時期にも訪れてほしい。

冬は雪の季節である。木々からは葉っぱが落ち、色づく季節への準備期間になる。ときおり降る雪の日に訪れることができれば、屋根の雪に、魅了される。寒いかもしれないが、行くだけの価値がある。



いかがだったでしょうか。このように、同じ清水寺なのに季節が変わっただけで、こんなにも違った姿を見せてくれる。清水寺のような定番の観光地は、四季に注目して散策すれば、また違った趣を楽しむことができる。京都の観光地で、日本の四季を楽しめる

ことは魅力的だ。勿論、清水寺だけが美しいのではない。他にも桜だと平野神社、平安神宮。紅葉だと永観堂、東福寺などが有名で、調べればもっと多くの四季を感じられる観光地がある。

今回、京都が魅せる四季について述べてきたが、京都で感じる事が出来る四季は景色だけではない。景色に加えて、時代祭や祇園祭などのお祭りも開催される。四季によって違った味覚も楽しむことも出来る。京都は季節によって魅力が多くあるので、何度でも訪れたい街だと言える。皆さんも是非京都で、日本の四季を感じてほしい。

#### 参考文献

<https://www.kiyomizudera.or.jp/history.php>

<https://aumo.jp/articles/33046>

<http://www.pref.kyoto.jp/toshi/1188350303097.html>

<https://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000142/142484/5syou.p>

[df](#)